

人権学習展開例

主 題 名 カテゴリー、ステレオタイプ、偏見、差別

教 材 名 気づき（どうしてなんだろう？）

人権学習の視点 普遍的な視点「差別の構造」

主題・教材について

日常生活の中で、普段、私たちは個々の差異を共通の性質で一般化したり分類したり（カテゴリー化）して他者あるいは他の現実を、その場その場で意味あるものとして認知し、理解している。しかしながら、その営みが「ステレオタイプ」、つまり「思い込み」「決めつけ」「固定観念」「紋切り型」になり単純化されて柔軟性を失う時、偏見や差別など社会の様々な問題につながっていく。アメリカの社会心理学者G. W. オルポートは、「偏見とは、十分な根拠もないのに、他人を悪く考えることである。」と述べているが、ここでは、ステレオタイプが偏見へと、そして差別へと移る流れに気付かせたい。

ね ら い

差別につながる偏見やステレオタイプのものの見方について理解させ、差別を見抜き、解決していこうとする態度を育てる。

本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具	
導入	私たちは、情報をどのように取り入れているだろう。					
	○情報の取り入れ方は、一人一人異なっていることに気付かせる。	二人 一組	○ワークシート1に、10円玉の絵を描かせ、隣同士で絵を交換し見せ合う。	○普段見慣れていても、意識していないと気付いていない(見えない)こと、それ故、分かったつもりになって、それ以上のことに気付いていないのではないかと、ということ指摘したい。	ワークシート1	
展 開	なぜガリレオは嘆いたのだろう？					
	○「ステレオタイプ」による「カテゴリー化」について認識を深める。	二人 一組	○教材の「ガリレオ」を読み、問いかけの回答を2人で話し合わせ、ワークシート2に書かせる。	○様々な回答が予想されるが、ガリレオは、当時の支配的な世界観に囚われず、自分の見た事実を信じていたことをおさえる。	生徒資料 ワークシート2	
	○「カテゴリー化」が、日常的な行動に反映していることに気付かせる。	二人 一組	○二人一組になり、ジャンケンゲームをさせる。	○ジャンケンゲームの意図は、ゲームが終わってから知らせる。		
	ステレオタイプとは？					
	○部分的な情報から全体を推定し、「決めつけ」や「思い込み」に陥ってしまうことに気付かせる。	一斉	○カードマジックを見せる。 ○「続・世界の日本人ジョーク集」を読ませる。	○ものごとを一面的・部分的にしか捉えていないことに気付かせる。	生徒資料	
		二人 一組	○二人一組で「ステレオタイプクイズ」をさせ、何組かに回答させる。		生徒資料 ワークシート2	
	「偏見」から「差別」へ					
	○ステレオタイプと偏見の違いに気付かせる。		○4コマ漫画を読み、考えさせる。	○偏見とは、自分の「固定観念」に好悪の感情（特に嫌悪やマイナスの感情）を加え、否定的評価を与える心の動き（差別意識）であることをおさえるとともに、そのような意識が態度に表れると「差別」につながることを気付かせる。	生徒資料 ワークシート2	
	○否定的評価について理解を深める。		○例文を読ませ、否定的評価について考えさせる。			

まとめ	○「偏見」と「差別」の違いを理解し、差別の構造について確認する。	二人一組	○「⑤偏見から差別へ」を読ませ、二人で話し合ったことをワークシートに記入させる。 ○「差別」を読み、「偏見」と「差別」の違いを考え、意見交流する。	○授業の展開を振り返り、差別の構造についてまとめる。	ワークシート2
-----	----------------------------------	------	--	----------------------------	---------

評価

差別につながる偏見やステレオタイプのものの見方について理解させ、差別的を見抜き、解決していこうとする態度を身に付けることができたか。